

マイタウン 2012年7月1日号に掲載

内科



福本 学

アスピリン製剤と消化管粘膜

「血液をサラサラにする薬」、中でも血を止める役割をもつ血小板の働きをおさえることで、脳

梗塞・心筋梗塞などの血栓症を予防する、低用量アスピリンを服用している人の数が増えてきています。しかし、この薬の服用で消化管粘膜にびらんや潰瘍、出血をおこす場合があります。他の抗血小板薬や、ワーファリンなどの抗凝固薬との併用により、出血のリスクは更に高まります。腸で溶ける錠剤の服用で、胃の粘膜傷害は軽減させることができますが、出血性潰

瘍が生じると、小さな病変でも止血が困難な場合が少なくありません。胃酸の分泌をおさえる薬剤や、プロスタグランジン製剤、粘膜保護剤などが粘膜傷害発生の予防に有効とされています。

内視鏡治療や抜歯などの処置の前には、休薬することが推奨されていますが、薬を長期間休むことによる血栓症発症のリスクを十分に考慮して対応する必要があります。

内科

新百合山手福本内科

☎ 955-8877

麻生区万福寺 6-7-2

メディカルモリノビル 2F

<http://www.fukumotonaika.jp>

